

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108217		
法人名	社会福祉法人 新秋会		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	秋田県秋田市土崎港中央四丁目4番16号		
自己評価作成日	平成23年6月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成23年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に根ざした福祉事業の展開」を法人理念とし、また事業書独自の理念として「いつまでも自分らしく穏やかに生活したい」を掲げ、運営に当たっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、昔からの市街地にあり、馴染みの商店街に出かける等、普段から地域との交流が図られている他、地域の祭りがさらに交流を深める機会となっている。
 法人の代表が経営する病院が事業所の向かいにある他、かかりつけ薬局、歯科、心療内科の医師が法人の理事となっており、利用者や家族の安心につながっている。
 職員は、笑顔が多く、自然と利用者にも笑顔が生まれている。支援にも一体感が見られ、利用者も安心して穏やかに過ごしている。居室に飾られた写真は、飾り付けやコメントが工夫され、面会に来た家族にも生活の様子が伝わるように配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として「地域に開かれた福祉施設」を掲げ、また「いつまでも自分らしく穏やかに生活したい」をホームの理念として実践につなげております。	事業所のホール、事務室には、理念が色紙に分かり易く掲示されている。理念に基づき、職員の話し合いで決められた3か月毎の目標も掲げ、毎日のミーティングで確認、周知を図っている。職員は、利用者の話しを傾聴することを大切にし、穏やかに生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、地区町内会会長が法人の評議員となっているなど地域とつながりをもっております。	町内会に参加している他、法人の評議員に地域の町内会長が2名入っており、行事等の情報を得ている。近くの商店街に買い物に出かけたり、近所の方が山菜を届けてくれたりと日常的に地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	季刊誌である広報誌を配布したり、地区の小学生などの見学などの依頼があれば積極的に受け入れています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や事故・感染防止などについてお話しさせていただき、ご意見をいただくようにしております。	家族や地域の元町内会長等の参加を得て、2か月毎に開催している。事業所の取り組み等の説明が主になっているが、家族より今年度開設予定の同法人の事業所への質問等も寄せられている。	行政や包括支援センターの職員の参加を呼びかけ、多角的な視点を持つことで、さらに運営推進会議を事業所の運営に活かしていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	秋田市介護高齢福祉課・監査指導室を中心にやりとりをさせていただいております。	秋田市のグループホーム連絡協議会に加入しており、会議時に、市の担当者から介護保険の動向等の情報を得ている他、事業所の取り組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会及びマニュアルを整備し、身体拘束を行わないケアを実践しております。事務所内にも身体拘束廃止宣言の張り紙をして、普段から身体拘束を行わない意識付けを行っております。	身体拘束廃止委員会やマニュアルを整備し、身体拘束を行わない支援に努めている。職員は見守りを重視し、玄関には風鈴、階段2階のドアには鈴を設置し安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修資料を後日のスタッフミーティングにおいて全職員に周知・勉強する機会を設け、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で数名外部の研修に参加し、その資料をもってスタッフミーティングにおいて周知・勉強する機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談受付時、契約時に約款・重要事項説明書を用いて説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を設置し、また苦情受付担当者を掲示しております。また家族面会時には主に介護リーダーが日頃の状況をお伝えし、ご要望をいただくようにしております。	家族の面会時に要望を聞いている他、通院の結果を報告する時等に、利用者に関する情報やアドバイスをいただいている。出された要望には、スタッフミーティング等で検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで各職員から出た要望等についてはいったん介護リーダーが取りまとめ、管理者から理事長へ具申し、事業に反映出来るようにしております。	職員は、管理者や介護リーダーに直接要望や意見を伝えている。法人全体に関わることは、管理者より理事長に伝えるシステムとなっている。事業所内のことは、都度検討されている。実際に、手すりの設置や研修への参加等、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士を取得した職員は正社員登用としております。また、年休を取り易いように人員を配置しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	保有資格や経験年数、日々の業務への取り組みなどから、必要と思われる研修に参加させております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成21年発足の秋田市GH連絡協議会に参加し、勉強会やおしゃべり会、相互訪問活動を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問の際にもご本人やご家族からの要望をお聞きし、入居後についても出来る限り安心して生活出来るよう説明しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前事前訪問の際、ご家族からのご要望をお聞きすると共に、入居後も出来るだけ細かくご本人の生活状況をお伝えするようしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員全員で一つの家族であるという考えのもと、お互いが助け合い、各自が役割を持ち、自分も必要とされているという気持ちをもっていただくようしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活を職員とご家族が協力して支えていけるよう、ご家族には過去の生活歴の他、最近の状況を細かくお聞きしながら、関係を構築しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やお知り合いなどのご面会には特に制限は設けておりません。また暑中見舞いや年賀状などで昔からの関係が途切れないようしております。	利用者に聞いたり、家族の話から馴染みの関係の把握に努め支援している。利用者は、事業所の近くの出身の方が多く、散歩の帰りに墓参りをしたり、地域の祭りが馴染みの方と会う良い機会となっている。また、年賀状等を継続して交換することで、関係の継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係等を十分に考慮した上で職員が間に入り、孤立しないよう配慮しております。また同様にテーブルの着席位置なども、同様に配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においてもご相談があればいつでもお受けいたしております。居宅介護支援事業所のケアマネージャーとも連絡を密にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の要望や訴えを出来る限りくみ取るようにしております。またそれらをケアプランミーティングで話し合い、情報の共有の他、サービスに反映出来るようにしております。	職員は、利用者の話しを聞くことを大切に、うまく伝えられない方には、表情や雰囲気から意向の把握に努めている。帰宅願望が強い方に、声かけやアプローチを工夫し、職員間で統一し、不安を取り除き、安心につなげるように支援していることが確認できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、担当ケアマネージャーからこれまでの生活をお伺いし、ひなた入居後も継続して途切れることがないように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の過ごし方やバイタルの状況を介護記録及び利用者申送り帳に記載し、日々にミニミーティングにおいて、全職員が情報を把握し、統一した対応が出来るよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人から要望等をお伺いし、ケアプランミーティングの際、全職員からの意見を集約、考慮した上で、介護計画を作成しております。	利用者、家族から要望を聞きケアプランに盛り込んでいる。変化があった場合等、適宜ケアプランミーティングで話し合い、ケアプランに組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、状態をもとに対応方法を変更する必要がある場合は、毎日のミーティングの際に対応方針を決めて実践し、その後のケアプランミーティングで介護計画に反映出来るようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に近所や町内の方に声をかけていただき、地域資源も把握しながら、本人が安心して生活していただけるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回から2週間に1回、定期的にかかりつけ医に受診しております。歯科は必要時訪問診療をお願いしております。協力医並びに薬局が施設向かいにあり、気軽かつ迅速に相談・連絡できる体制となっております。	かかりつけ医、薬局が事業所の向かいにある。定期的な受診の他に看護師の訪問があり、緊急時の連携も整っている。歯科は、必要時に往診してもらう体制となっている。通院は、基本的に職員が支援し、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所に看護職員は配置されておませんが、向かいにある協力医療機関の内科・心療内科の看護師に相談し、アドバイスをを受けたり、直接ホームに来ていただき、状態を見てもらったりしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をなった場合は、病棟看護師にこれまでの生活状況を詳細にお伝えしております。また早期にホームへ戻ってこられるよう、入院時に病院へその旨をお伝えしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の段階で、当施設の設備面などでの考えられる対応の限界はお伝えしております。重度化された場合においては主治医からご家族への説明を始め、話し合いをして方針を共有していくようにしております。	重度化や終末期の方針について、事業所としてのハード面等の限界も含めて家族に説明し、同意を得ている。実際に事業所で看取った経験もあり、重度化した場合も医師との連携を図りながら、利用者、家族の意向に沿って対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・急変時対応マニュアルをもとに協力医療機関の看護師から指導を受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練を実施し、そのうち1回は消防署立会いのもと訓練の指導を受けております。訓練には出来るだけ多くの職員が参加できるよう、シフトを考えております。	年2回避難訓練を実施している。東日本大震災後、消防署より地震や津波を想定した訓練を実施するようにとの話があり、今後、消防署と連携を取りながら、訓練の実施やマニュアルの作成を行うこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の利用者の生活ペースを尊重し、見守りを中心とした対応を行っております。また個人情報については職員から秘密保持にかかる誓約書を取り、徹底しております。	管理者は職員に、利用者を人生の先輩として接するように、また、家族のこと等、他の利用者の前での発言に注意するように指導している。入浴や排泄支援、言葉遣いもプライバシーに配慮されていることが確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自分から何か話し易い雰囲気となるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースでゆったりと生活いただけるようにしております。自室で過ごす方もいれば、リビングで横になっている方など様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	化粧などご自分で出来る方は本人にお任せし、外出時は声かけにより身嗜みを整えていただけるように支援しております。理・美容店には行きつけの所に行っていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何か食べたいものはないかお伺いしたり、個々の出来る能力に応じて、調理や準備を職員と一緒にしております。	利用者より、食べたいものを聞きメニューに活かしている。食事もしりげなく声かけし、楽しい雰囲気食が進むように配慮している。また、地域の祭りには欠かせない「カスベ」を用意する等、季節を感じられるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者の摂取量をチェックし、体重のデータなどもあわせて、医師の指示をいただきながら支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯洗浄を行っております。義歯の方は夜間ボリドントを使用して清潔に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間・回数を介護記録に記載し、さりげなく声をかけたり、誘導して自立に向けた支援を行っております。	利用者ごとの排泄状況をチェックし、オムツを使用しないように支援しており、実際に、オムツを使用しなくなった利用者もいる。声かけも利用者に応じて工夫し、さりげなく促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に適切な水分摂取量の確保や適度な運動を行うようにしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り利用者の希望に沿う形で、最低平均週3回の入浴を実施しております。	浴室は、広くゆったりとしている。入浴は、週3回、ワンツーマンでの支援で行っており、コミュニケーションを図る良い機会となっている。洗髪を好まない利用者には、家族の了解を得て、美容院を利用して洗髪を行ったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや畳の小上がりで横になっている方もいらっしゃいますが、本人の生活リズムに配慮しつつ、昼夜逆転等にならないようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者に内服薬の内容については主治医及び薬剤師から指導を受けております。状態に変化があった場合は都度主治医及び薬剤師に報告し、必要な指示を受けております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る能力に応じ、調理や掃除、プランター菜園の手入れなどを行っていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	日常的に買い物やドライブ・散歩などを行っておりますが、普段行けない遠い場所については、今後ご家族と協力して外出できるかどうか検討していきたい。	利用者や家族の要望に応じて、ドライブや散歩に出かけている。食材の買い物に出かけた際、知人にスーパーで会うこともあり、楽しみになっている。動物園や水族館へ出かけたり、様々な体験ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて自己管理していただいております。また買い物の際は職員が見守り、自分の欲しいものが購入出来る様にしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からご家族に電話したいと申し出があった場合、プライバシーに配慮し、電話の子機をお渡しして自室で電話していただくようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・カーテンで調光し、不快な音がでるようなものは設置しておりません。居心地よく生活できるよう配慮しております。	2階建ての事業所は、広く、明るく、ゆったりとしている。ホールには、利用者の作った刺し子や手作りのカレンダーが飾られ、2階のホールでは、カーテンを閉め暗く雰囲気を感じ、懐かしいビデオの上映を行ったりしている。階段を利用する利用者もおり、身体機能の維持にもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共用空間には1階にソファを2ヶ所、2階に1ヶ所設置し、利用者同士またはご家族と一緒に過ごせる場所を確保しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の自宅でのなじみのものを持ち込んでいただき、本人が使い易い居室となるようにしております。	居室には、備え付けのベッドやチェストの他、馴染みの家具等が持ち込まれている。毎月、利用者毎の写真が入った手作りのカレンダーが飾られている他、利用者の写真は飾り付けやコメントが工夫され、面会に来た家族にも生活の様子が伝われように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設以来、入居者の身体状況に変化に合わせて、トイレやベッドに手すりを追加設置したりして安全かつ自立した生活が出来るように努めております。		